

[2] 点検・評価 <1> 効果が上がっている事項

自己点検・評価活動及び結果の公表については、活動結果を広く公表することを目的に、『神奈川大学の基本方針』《資料X-8》を配付することや、「本学の情報」サイト《資料X-6 No.1～2》に方針、中期目標を掲載し公表に至っていることについて、認証評価受審前に比すると格段に積極的な情報公開を行ってきた。

「内部質保証の方針」に基づく「神奈川大学内部質保証システムの鳥瞰図」《資料X-25》を作成し、構成員にそのシステムや活動の周知を行ってきた。

当該組織または個人で活動を完結するのではなく、必ず第三者的視点を加える評価システムが、前回の認証評価時から今日までの間、教学及び事務組織双方に確立できたことにより、PDCA サイクルが回り始めている。

前回の認証評価結果を受け、①3つのポリシーを含む、教育目標や各種方針の策定（全学及び各組織）に至った、②各種方針に関わる中期目標・行動計画の3ヵ年計画を設定した、③教員1人当たり学生数を是正するため経済学部には教員を4名採用した、④シラバスの統一的な記述及び記載内容の確認体制を確立した等、具体的な改善を図った。《資料X-24》

[2] 点検・評価 <2> 改善すべき事項

全ての自己点検・評価活動を外部に公開することについては検討の余地がある。

学校法人として公開する情報について規程に定めたが、情報公開請求がなされた場合の対応については定められていない。

さらに客観的な視座を得るために学外者による評価委員会を組織すること等、外部評価に関する検討も今後の課題である。

将来構想中期実行計画と自己点検・評価活動を連関させる検討については、未だ十分ではない状況である。

学内で収集している統計データについては、未だIRとして活用するには至っていない。また「進捗状況確認シート」「点検・評価報告書」の執筆に係るデータの授受について、現在は各組織とメールで行っているが、より作業の合理化・簡易化を図るとともに、将来構想中期実行計画との連動を視野に入れた、総合的なWEBシステムを構築する必要がある。